

開業30年目の電子カルテ化奮闘記

次代への継承に向けスタッフ一丸で敢行



東京都練馬区
つつみ眼科クリニック
院長 堤 篠子
医療法人社団 つつみ愛

ニックも手狭になつてきました。また「移転する」と言いたいところですが、66歳という年齢になり、移転より、この空間を有効利用するほうがいいのではと考えるようになりました。そうなると、思いつくのは「電子カルテ化」です。このクリニックが私の代で終わってしまうのでしたら、その考えはなかつたと思います。しかし、クリニックを継承する嫁の妙先生（副院长）は電子カルテ世代です。彼女が院長になる時には電子カルテ化して渡したい、移行に伴うさまざまなことを私が手伝えるうちに導入に踏み切りたいと思いまし

た。

やはり導入したい

それから半年が経ちました。しかし、私はずっと諦められず、悶々としておりました。そんな気持ちを、機械音痴の私を知る友人たちに話したところ、「あなたには電子カルテ化は無理」と言われました。それを聞いた途端、「やっぱり電子カルテ化したい。機械音痴でも負けないぞ」となぜか思つてしまつたのでした。

はじめに

私は同じ駅の周りで3回移転を繰り返し、今は4つ目のクリニックで仕事をしています。開業25年

目の時には、『銀海No.218』にそれまでの経緯を書かせていただきました。いい記念となりました。それから5年が経ち、今の74坪のクリ

一度は断念

数社の眼科専門の電子カルテ会社より見積もりを出してもらい、いろいろなクリニックの見学もさせていただきました。しかし、この時一番いいと思ったA社の見積額は私の予想を大きく上回っていました。機械への接続や端末の数が多く、費用がかさむようでした。

電子カルテ化すること

そこでB社の方と何度も話し合ひ、こちらの要望を伝え、使いやすいように変えていただき、かなり使いやすく改善されたように思います。いろいろな要望に根気よく付き合つてくださったB社の方には本当に感謝しています。電子カルテ導入



電子カルテ用のPCが並ぶ検査室

ていましたので、急遽お願いすることになりました。

さりながら不安がいっぱい

紙カルテという患者様情報の宝庫を手放したら、患者様のことが分からなくなるのはと、とても心配でした。たくさん紙カルテをスマリ化しなければいけませんが、忙しい中で、さらに仕事が増えてします。しかし、ある先生に「単純な病歴のカルテはサマリーにして、複雑な内容のものは無理になくさなくていいのでは成功のカギだと思いました。

導入して約1か月半後、いよいよ私もドクターの入力が始まりました。一番の問題はブラインドタッチができない私です。シユラバーを付けないとアドバイスを頂きましたが、1人のシユラバーでは足りず、2人に付いてもらうことになりました。私は患

いよいよ運用開始

最初の1か月はHFA・OCT画像などのファイリングから始め、次に視力や眼圧などの検査結果の入力へと慣れていました。私のクリニックの検査スタッフはパソコン得意な人が多く、「どんどんやつていきましょう」という積極的な姿勢がありました。パソコンに強いスタッフがいるかどうか、皆が一丸となって電子カルテ化に取り組めるかどうかが、

成功のカギだと思いました。

導入して約1か月半後、いよいよ私もドクターの入力が始まりました。一番の問題はブラインドタッチができない私です。シユラバーを付けないとアドバイスを頂きましたが、1人のシユラバーでは足りず、2人に付いてもらうことになりました。私は



そこでB社の方と何度も話し合ひ、こちらの要望を伝え、使いやすいように変えていただき、かなり使いやすく改善されたように思います。いろいろな要望に根気よく付き合つてくださったB社の方には本当に感謝しています。電子カルテ導入



④ ジョーが来た、バカボンたちもやって来た

予期せぬ幸運が二度も!!
笑顔と温もりを運んで

大阪市北区・医療法人 森下眼科
院長 森下 清文



あしたのジョー最終話掲載号(1973年5月13日号)とちばてつや先生直筆のサイン色紙を手に

今回は少し趣を変え、特別バージョンで読者の皆さんに私の幸運をお裾分けしたい。世の中には、想像できないような幸運が時に舞い込むことがある。

一度目の幸運が舞い込んできたのは3月のある日。仕事を終え自宅に帰った私を待っていたのは一通のレターパックであった。差出人を見てびっくり、「ちばてつや」とあった。さらに驚いたのは、その中身である。「あしたのジョー」最終回のラストシーンの色紙で、そこにはジョーの真っ白に燃え尽きた姿が描かれていた。「あしたのジョー」が誕生して50年、その節目の年にこのような色紙を頂けるとは夢にも思わなかつた。

ただ、これには少し布石があつた。ちば先生に届いた年賀状のコンテストが毎年あり、私の年賀状が一昨年、昨年と2年連続で最優秀賞を頂いていた。妻にあきれられたが、ダメもとで、もし今年も優秀賞を頂けるようなら(なんと

あつかましい!)、「あしたのジョー」のラストシーンの色紙を頂けないでしょうかと、先生にお願いの手紙を書いていた。そして、意気込んで年賀状を作成…。その結果はともかくとして、先生が気を使って、私の願いを聞いてくださいました。驚いてしまった。一つの願いを聞いてくださる先生に「感謝」以外の言葉が浮かばない。まさに夢のような一日であつた。その日はなかなか寝付けず、ジョーの勇姿が走馬灯のようによみがえった。

二度目の幸運が舞い込んできたのは5月の連休後の忙しい時期で、帰りが遅くなる日が続いていたときだつた。帰宅すると、赤塚不二夫先生を通じての20年来の友人から小包が届いていた。開封してびっくり、赤塚先生の色紙やグッズが満杯のまさに宝箱だった。定年退職し、転居に伴い、保管が難しくなつたので、私に引き継いでほしいとの文面が添えられていた。

大変な申し出に、私には重荷で一瞬困ったなと思ったものの、根は正直で、翌日にはサインが書かれた大きな布(70×170cm)のシワを妻に伸ばしてもらい、額縁屋で額を特注していた。思考と行動がばらばらなのが自分でもよく分かったことに驚いてしまった。一つの願いを聞いてくださる先生

に「感謝」以外の言葉が浮かばない。まさに夢のような一日であつた。その日はなかなか寝付けず、ジョーの勇姿が走馬灯のようによみがえった。赤塚先生の元気なときに描かれた人物(キャラクター)たちは、本当に生き生きしていた。その方もたいそう喜んでくれ、先生の元気な姿に思いました。その後も多くの方に見ていただいたが、私同様、皆一様に「素晴らしい、懐かしい」を連発し、幸せそうな笑顔を返してくれた。たかがマンガ、されどマンガ。みんなを幸せにし、笑顔にしてくれる。マンガって素晴らしい!と改めて実感した。信じられないような出来事が二度も続くとは、マンガ好き冥利に尽くるとしか言いようがない。

今回は私の幸せな話になってしましましたが、皆さんにも予期せぬ幸運が訪れますように!!

*あしたのジョー
高森朝雄(梶原一騎)原作、ちばてつや作画の日本を代表するボクシングマンガ。
『週刊少年マガジン』に、1968年1月1日号から1973年5月13日号にかけて連載。



20年来の友人から引き継いだコレクション

成功のもう1つのカギは、電子カルテ会社の顧客ニーズに対応できるフレキシビリティだと思います。

誤算に学ぶ

1つの誤算は、紙カルテは、すれなくなるても、単には廃棄することはできないということです。

工夫が必要でした。
導入8か月目、突然、電子カルテがシステムダウンしました。カルテ、OCT・HFA画像もP.Cで見ることができなくなりました。

もう1つの利点は、受付スタッフの紙カルテを探す手間が減ったことです。紙カルテが完全になつたら、患者様への対応をさら

に丁寧にできるようになるのでは期待しています。

さはひとしおでした。将来、カルテ棚がすべてなくなつたら、長年の夢だった診察室を1つ増やす予定です。



スタッフと。私の左隣は妙先生(副院長)、右隣は増本美枝子先生

紙カルテはパラパラとめくることで、ラとめくることで、過去の情報を簡単に振り返ることができます。ですが、電子カルテはそれができません。きちんとまとめておかないと患者様の病歴を見落としてしまいます。また、眼鏡の処方1つにしても、視力検査の結果を見て、試し掛けをして眼鏡処方と、その都度カルテを開かなければいけません。どうあっても診療スピードは落ちますので、

紙カルテの頃、スタッフは写真、各種検査の結果、文書などを切つたり貼つたりする作業にずいぶん時間を割いていました。今は切り貼りがなく、スキャンされたものは、やがてみると時間が短くなっています。大変ですが、すごいスピードで変化する時代に付いていくには、やってみるしかないと思います。紙カルテには戻りたくない

です。大変ですが、すごいスピードで変化する時代に付いていくには、やってみるしかないと思いません。紙カルテが増える前に「一日でも早く決意したほうがいい」という言葉で締めくくりたいと思います。

最後に、快く見学を許可してくれた先生方、わがままな顧客に付き合つてくださつたA社およびB社の方、そして、がんばつてくれた私のクリニックのスタッフたちに心から感謝申し上げます。

それは電子カルテの欠点を思い知りました。そういうときのための対処法マニュアルを作つておかなければ痛感なくなる時を待つことにしました。

良かつたこと

やはり、一番の利点は省スペースです。ある日、物置を見たら、いろいろな紙類を入れた段ボールがなくなっていました。使わなくなつたカルテ棚を処分してワーキングテーブルが置けた時のうれし

おわりに

長年、紙カルテで仕事をされてきた先生の中には、私のように悩まれている方もいらっしゃると思います。参考になればと思い、紹介させていただきました。悪戦苦闘の毎日でしたが、結論としては

「もう紙カルテには戻りたくない」

です。大変ですが、すごいスピードで変化する時代に付いていくには、やってみるしかないと思いません。紙カルテが増える前に「一日でも早く決意したほうがいい」という言葉で締めくくりたいと思います。